

○13番（川上晋平）登壇 私は新政会を代表いたしまして、平成11年度一般会計及び特別会計並びに企業会計の歳入歳出決算について、これを認定することに賛成の意を表するものであります。なお、決算の内容につきましては、決算特別委員会総会及び分科会において同僚議員からも意見要望を述べておりますので、ここでは概括して述べることにいたします。

さて、時代は今まさに転換のときを迎えております。20世紀から21世紀へ、そして新たなミレニアム、千年紀へと移ろうとしており、本来ならば、世の中はお祝いムード、お祭り気分満ちているべきところかもしれませんが、我が国の政治、経済、そして世相はそれどころではない状況が続いています。一方で社会は大きく変化しつつあり、高度情報化の波は予想以上の速さで押し寄せ、少子・高齢化は着実に進み、また、市民の価値観やニーズも非常に多様化してきております。

昨年6月29日の集中豪雨が教えてくれたように、安心して住める安全な都市づくりも重要かつ緊急な課題であります。財政状況が厳しい中、行政として責任を持って対応すべき業務がますます増加してきているという状況であります。さらに、世界に目を向ければ、ポスターレス化、グローバル化の進展や地球規模での環境問題に対する意識の高まり、朝鮮半島における両国間の急速な接近など、国際的な大きな潮流も見過ごすことはできません。本市が21世紀に向けて都市の活力を維持、発展させつつ、福祉や環境の充実を図り、豊かで魅力的な都市を築いていくためには、厳しい財政状況の中においてもしっかりと将来や世界を見詰め、必要な施策を確実に実施していくことが重要であります。そのためには、事業の的確な選定や財源の重点的、効率的配分に努めるとともに、予算執行に当たりまして一層厳しい姿勢で職員の皆さんが創意工夫され、健全な財政運営に努力されるよう要望いたします。行財政の面におきましては、第2次福岡市行財政改革大綱に沿った積極的な改革を実施してこの厳しい時代を乗り切り、サブタイトルにありますように、21世紀、新時代における行財政システムの確立をなし、他の自治体のお手本となるよう期待するものであります。災害に強い都市づくりにつきましては、今後ともまちづくりの基本とすべきであり、関係部局連携のもと、市一丸となってさまざまな防災対策に取り組んでいただきたいと考えます。環境共生都市づくりも本市の重要な課題であります。地球温暖化対策、環境ホルモン汚染対策、ダイオキシン対策、ごみ減量対策等の総合的な推進が求められています。また、観光についての施策も忘れてはなりません。福岡市は自然、歴史、文化いずれも豊かであり、これらは貴重な財産であります。華やかな都市型の観光だけではなく、既存の歴史的資産を生かした観光にももっと力を入れるべきであります。これらの課題は本市にとって必要不可欠なものであり、行政としてさまざまな創意工夫を凝らして対応していかなければならないものであります。市職員の皆様が知恵を出し合って重点的、効率的に施策展開を図られることを望みます。

私ども新政会は、昨年春から福岡市政へ携わる場をいただいたまだまだ若い会派ではありますが、市民を愛し、熱い心を持って21世紀の福岡市のために取り組んでまいる決意であります。最後に、このような厳しい行財政のもと、市長を初め職員皆様の御努力を期待いたしまして、私の賛成討論を終わらせていただきます。